



R(原物43%中25%程度)配合し、給与しても嗜好(しこう)性は高く、栄養要求量を充足でき、泌乳成績もコーンサイレー

資材で補う必要がありますが、飼料費の試算では従来型粗飼料と比べ、原物1%当たり約9円低くすることができました。

### 飼料用稲「たちすずか」

## 牛消化しやすく多糖 従来粗飼料より安価

牛乳生産を行う上で、栄養要求量が高い乳牛の飼料費を抑えることは、酪農経営の安定化にとっても重要です。「たちすずか」は、牛が消化しにくい穂の部分が高く、エネルギー源となる糖分を茎や葉に多く含む飼料用稲です。そこで、従来品種にはないこの特徴を生かし、「たちすずか」が、これまで乳牛のエネルギー源とされてきたコーンサイレーシや輸入干し草などの従来型粗飼料の代替として活用できないか検討しました。

泌乳後期(日乳量15%程度)の乳牛に対し、サイレーシ化した「たちすずか」を混合飼料(TMR)の乾物中40%(TMR

シなどによるTMRと比較して遜色がないものでした。また、「たちすずか」は、糖分が豊富な半面、タンパク質に乏しいため、大豆かすなどの他

混合飼料 (TMR)	摂取量(kg/日)		栄養(TDN)充足率 (%)	単価 (円/原物1kg)
	原物	乾物		
「たちすずか」有	43.3	26.4	175.4	32
「たちすずか」無	39.0	23.9	142.9	41

表。 今回の結果は、分娩(ぶんべん)間隔の延長などにより乳量の低い時期の飼料費削減に活用できます。今後さらに、泌乳量の多い時期の乳牛にも「たちすずか」を多給できないか検討します。

(県農林技術開発センター畜産研究部門中小家畜環境研究室主任 堤陽子)